

## 2018年3月実績概要(メモ)

(2018. 4. 19)

定修の本格化に伴いエチレンをはじめとし、誘導品のポリオレフィン、化成品等の生産は前年割れ。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 494,700トン

前月比 ▲ 5.2% (▲27,300トン)

前年同月比 ▲12.9% (▲73,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 10.7%	-
定修要因等	▲ 15.4%	▲ 13.8%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 0.5%	+ 0.9%
生産増減率	▲ 5.2%	▲ 12.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.5%→ 当月97.0% ← 前年同月96.1%

定修プラント：前月なし → 当月2社2プラント ← 前年同月なし

平成29年度(会計年度)6,459.3千トン 前年度比 +2.7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加や稼働率要因からLD、PP、PS、MMAモノマー、AN、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの11品目がプラス。HD、SM、塩ビニル樹脂、SBRなどの6品目は定修規模の差からマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模差からLD、HD、PP、塩ビモノマー、BR、キシレンなどの10品目がマイナス。PS、SM、SBR、ベンゼンなどの7品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LD、PP、PSは日数増と稼働率要因等からプラスとなった。HDは日数の増加に対して定修系列数の増加と稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、LD、HD、PPは定修系列数の増加や稼働率要因等からマイナス。PSは定修系列数の減少等からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、営業日数の増加から4樹脂ともにほとんどの出荷分野において数量の増加が見られプラスとなった。

前年比では、引き続き在庫確保へのバイアスが掛かっている状況にあること、また、前年の出荷が近年の3月としては高めの水準にあったことからLD、HD、PPの3樹脂ではマイナス。PSのみがプラスとなった。

ハ) 輸出

輸出は引き続き低位な状況であることに変わりなく、当月は営業日数の関係から前月対比で4樹脂ともにプラスとなった。

前年比では4樹脂揃ってマイナスとなり、特にLD、HDでは大幅なマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PSで減少し、PPは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PPは前月並み、HDは上昇、PSはやや低下した。在庫水準としては、前月と同様にLD、HD、PPでは3カ月超えの水準にあり、数値上では高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LD	▲ 5,700	3.6	3.6
HD	▲ 8,300	3.3	3.5
PP	+ 4,900	3.0	3.0
PS	▲ 4,200	1.4	1.3

以上